

平成 22 年度 第 4 回特定調達品目検討会議事要旨

日 時：平成 23 年 1 月 12 日（水） 10 時 00 分～12 時 15 分

場 所：経済産業省別館 11 階 1111 号会議室

出席委員：阿南委員、指宿委員、宇野委員、奥村委員、乙間委員、岡山委員、辰巳委員、奈良委員、藤井委員、安井委員（座長）

欠席委員：奥委員、酒井委員、原田委員、平尾委員（五十音順、敬称略）

1. 特定調達品目及び判断の基準等の見直し（案）について

- ・ 掛時計について、基準は一次電池に関するものであるが、一次電池で 10 年くらいもつものもあり、コスト的にも必ずしも太陽電池を使う必要がないのではないかと。
- ⇒ 掛時計の基準は、3 つのパターンで基準が分かれており、それぞれに良いところがある。今回の見直しは、従前の基準を場合分けした形で、実際は基準としては変わっていない。（事務局）
- ・ 備考 2 の「判断の基準 における一次電池の電池寿命は JIS B 7026 による。」という記載について、JIS で規定しているものが測定方法であれば、電池寿命の測定方法と書くべき。
- ⇒ 備考 2 については、JIS 規格を確認の上、表現を修正する。（事務局）
- ・ 会議・イベントの検討はどのように進められたか。会議資料のペーパーレス化は進めていくべきであると考えます。
- ⇒ 会議・イベントについては、調達実績集計上の適用範囲を定めるのが非常に困難である。当面は、環境省が作成している「会議等の環境配慮のススメ」というガイドラインの運用で対応していきたいと考えている。（環境省）

2. 次年度の検討課題等について

- ・ 今後は、品目間で比較できるよう、品目毎にどの程度 CO₂ 排出量が減るのかを「見える化」していくことが必要である。また、再使用、再利用をするためにエネルギーや資材が使われる場合もあり、全体的な環境負荷を見ていく必要がある。
- ・ グリーン購入におけるカーボン・オフセットの位置づけについて、製品間で積極的に活用していくことを想定しているのか。カーボン・オフセットの中で、推奨できるものを示していくのか。
- ⇒ 現状では基本方針の前文に、各機関は調達にあたって、カーボン・オフセット認証ラベル、カーボンフットプリントマークを参考とする旨記載している。製品間の比較において、基準値と同等でクリアしているもの、基準より高い線でクリアしているもの、オフセットしているもの、どれを優先的に取るか方向性として定めきれていない。今後の状況を注視し、特定の分野で広くカーボン・オフセットが進んでいく場合は、判断の基準や配慮事項にしていくということも考えられる。（環境省）
- ・ カーボン・オフセットを適切に使っていくということは非常に有効であるが、あまりそれに頼りすぎると、個々の製品分野での削減が阻害されることもある。慎重に検討していただきたい。
- ・ LED 照明については、エコマークでも基準化に向けてスタートしたところであるが、JIS 等

の基盤整備ができていない状況であり、検討に時間を要すると考える。

- ⇒ LED 照明器具は、品目の設定時から数年が経過し基準の強化が必要であったため、今回エネルギー消費効率の基準を 20 lm/W から 40 lm/W に引き上げた。ご指摘の通り、まだ JIS 規格が検討中の段階であり、このことは備考に記載して注意喚起している。来年度以降に、基準引き上げが可能なタイプだけでも見直していきたいと考えている。（環境省）
- ・ グリーン購入法は施行から 10 年経過している。過去からの歩みを包括的に見直し宣伝することが重要ではないか。また、業界の意見などを参考に、近未来のロードマップを示して市場のグリーン化を促進するような考え方があっても良いのではないか。
- ・ 公共建築物への木材利用促進法が制定されており、グリーン購入法の推進と関連させて進めるべき。次年度の重点改善品目候補である「オフィス家具等」についても、金属に係る検討だけではなく、木材の利用も視野に入れた検討をすべき。
- ⇒ 年度末のブロック別説明会では、合法木材や間伐材の利用について、林野庁から説明を行っており、その中で周知していきたいと考えている。また、オフィス家具等については、金属の基準は棚・収納用什器に限られており適用範囲の拡大が課題となっているが、木材利用の推進について記載することについても併せて検討したい。（環境省）
- ・ 世界では、森林だけでなく、紛争地域からの鉱物資源を持ってきていないか申告しなければならぬという動きがある。このような意識は、トッランナー的に日本としても取り入れていくべき。基本方針の前文に、どのような地域から調達すべきか記載することによって、いずれは個々の品目に波及していくのではないか。
- ・ 物品の製造におけるカーボン・オフセットをどう考えていくか。カーボン・オフセットを導入したものを CO₂ 削減の手段と考え同等に評価するのか、オフセットは補助的な手段と考えるのか、そろそろ方向性を定めておかないと、混乱が生じるのではないかと懸念している。
- ・ エチレングリコールをバイオエタノールから合成したペットボトルが出てきており、オフセットなしでも環境負荷が低い可能性があるため、予備的検討が必要ではないか。
- ・ クリーニングの基準の強化について、検討課題としてあげていただきたい。
- ・ 調達量を削減することが重要であり、CO₂ 排出量に効いてくると考える。調達量が増加したもののについて、可能なものは要因を分析すべき。

以上